

西伊豆健育会病院

リハビリテーション科 言語聴覚士 大野木 宏彰

- 功 績** STとしての知識と技術を遺憾なく発揮し、多くの患者さんと職種に関わり医療の質の向上に努め、西伊豆初のST訪問リハを開始し、在宅医療の質の向上にも寄与した功績。
- 推 薦 者** 仲田和正
- 推 薦 理 由** ST大野木は入職以来、これまでの経験を活かし、摂食嚥下について積極的に取り組んでくれました。当初、考えてもいなかった波及効果が患者さんだけでなく、関係各所に及び、当院の医療の質の向上に繋がりました。患者と真摯に向き合う大野木は、患者の尊厳に配慮し「愛情をもって親身な対応」を実践してくれていると考え理事長賞に推薦いたします。

内 容

以前から地域の会議等に出席すると、「STを採用して欲しい。」と切望されていましたが、リハ病院でもない当院にSTの応募はないだろうと半ば諦めていました。しかし奇跡的に応募があり、昨年7月に西伊豆健育会病院創立以来初めてのST、つまり西伊豆地域では史上初のSTが誕生しました。STの名前は大野木といい、前職が岐阜の病院だったこともあり、信長公の「楽市楽座」ならぬ「楽食楽座」をモットーとしています。また著書も発行しており、摂食嚥下リハビリテーションを専門として幅広い経験を重ねてきました。

大野木が入職したことを期に、従来、知識が全くなかった嚥下について、院内で講習会を開いてもらいました。嚥下困難の患者さんに対するアプローチが、実演を用いた講義形式となっていて良く分かりました。講習会のおかげで誤嚥性肺炎に対する治療法が広がり、医局で行っているPTLS（全国的なネット勉強会）でも講師を務め「西伊豆健育会病院のST」として全国にアピールできました。

大野木の効果は他部門に広がり、栄養科では食事摂取量を上げたいときに、嚥下機能や食事の形態について随時相談にのってもらい、患者さんの栄養状態の改善に繋がっています。更に、隔離対応となっている患者さんの、食事の摂取状況について把握し、栄養科に情報提供をしてくれるため、隔離中でも患者さんの状態に合わせた食事の変更ができるようになりました。大野木が入職して以降、栄養科では禁食対応の患者さんが減少し、個人対応食という形で何かしらの、患者への経口摂取を促すことができるようになりました。

病棟では、口腔ケアの手技と食事介助について、記録に残してくれたり、直接、指導してくれたり、看護師の知識と技術ではカバーしきれないところを、根気強く指導してくれました。更に窒息などのリスクを多職種で共有することで、医療の質の向上にも繋がったと思います。面会禁止中に食事を食べている動画を見たご家族は、とても喜んでいました。大野木は西伊豆初のST訪問リハも開始し、訪問診療医師とも連携し在宅医療の質の向上にも貢献しています。

(8月度リハビリテーション科 患者満足度：5.00Pt)